

I 単元指導計画と評価規準(4観点)、学習指導案【科目:家庭基礎】

1 単元・小単元	第1章 自分らしい人生をつくる
2 小単元の目標	生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解させることで、協力して家庭を築くことの意義や家族や家庭生活の在り方について考え、生活設計ができるようにする。
3 育てたい 資質・能力	「生きる力」の基盤としての生涯発達の視点で、自分・家庭・家族の在り方や意義をみつめ、ライフステージにおける自己課題の把握等、自分の生き方を具体的に考え、課題を把握し、解決しようとする姿勢を身に付けさせたい。また、家族内における理解と協力の下に、主体的に家庭生活に参加し、共に支え合って家庭を築くことや、家庭生活が家族や地域・社会に支えられているということから多様な生き方にも発展させ、自分らしいライフスタイルが形成できるようにしたい。

【参考文献】

- ・家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)
- ・2021 生活学 Navi 資料+成分表 (実教出版)
- ・「やりたい」「なりたい」から始めようーライフデザインを知る・考えるー (岐阜県)
- ・「岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進 エクセレント企業 取組事例集」 (岐阜県)

4 指導と評価の計画 【単元】第1章 自分らしい人生をつくる

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
1生涯発達の視点 ・人は生涯を通して発達する	○生涯発達の視点から今の自分を見つめ、青年期の課題を理解させる。	・生涯の中で青年期の位置を知り、過去と未来の自分にインタビューして、各ライフステージの特徴と課題を考える。	1		①過去と未来の自分の予想から各ライフステージの特徴と課題を考えている。		①生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解している。	ワークシート 定期考査
2青年期の課題 ・自分について考える 3目標を持って生きる	○肯定的な自己概念を高め、青年期の「自立」の意味を理解させる。	・ワークショップを通して、自己を客観的に見つめ、自己概念を高める。 ・興味のあることについて、長期的な目標と短期目標を立てる。目標の達成のために今やるべきことは何かを考える。	1	①青年期の課題を自分の問題として捉え、生涯を見通して考えようとしている。		①今の自分の達成課題や、青年期で達成すべき課題をまとめることができる。		ワークシート 定期考査
・ライフステージの課題	○進路・職業選択においての性別を意識する必要がないことを理解させる。	・ライフステージの課題と働き方についての実状を聞き、自分の望む働き方について考える。	1	②自分の将来のこととして捉え、講師の話をしっかり聞いている。	②進路選択・職業選択をする際重要視していることは何かを考えている。			ワークシート 行動観察
4人生をつくる ・人生90年時代を生きる ・一人で暮らす ・パートナーと生きる ・子どもと暮らす ・親を支える	○昭和初期時代と現在では、平均寿命もライフコースも大きく変わってきていることに気づかせる。 ○さまざまなライフスタイルや価値観があることを理解させる。	・人生50年時代の一生と人生90年時代の一生で何が変化したのか資料より分析をする。 ・一人で暮らすこと、結婚生活を送ること、親子関係を築くことの意味や利点について考える。	1		③今と昔でライフコースが大きく変化していることを資料から分析し、その理由も踏まえてまとめることができる。		②現在の家族の特徴をまとめ、多様なライフスタイルがあることを理解している。	ワークシート 定期考査
5家族・家庭を見つめる ・家族・家庭をどうとらえるか	○現代の家族の特徴や機能について理解させる。	・家族とは何かについて考え、現代の家族の特徴や機能について理解する。 ・世帯の定義、世帯の分類を理解し、世帯規模の縮小理由を考える。	1		④現代の家族の特徴を踏まえ、世帯規模が小さくなった理由や家庭の機能の変化について考えている。		③現代の家族の特徴や機能について理解している。	ワークシート 定期考査
・社会の中の家族・家庭	○家庭・家族に関する基礎的な法律を理解させる。	・旧民法と現行民法を比較し、その違いを理解する。 ・クイズを通して、結婚や親子、相続の法律について理解を深める。	1			②民法の課題(個人の尊厳と両性の平等の不十分なる点の検討内容)について、自分の考えをまとめることができる。	④結婚や親子、相続の法律について理解を深めている。	ワークシート 定期考査 行動観察
6これからの家庭生活と社会 ・男女で担う家庭生活	○固定的な性別役割分業を見直し、男女が相互に協力して家庭を築く必要性を学ばせる。 ○生活時間を見直し、人間として家族の一員として、よりよい時間の使い方を考えさせる。	・自分の家族の生活時間調査から、職業労働と家事労働の特徴、日本に根強く残る性別役割分業意識について理解する。 ・女性がM字型の働き方になる理由やその問題点について考える。	1		⑤日本の女性の働き方がM字型になる理由やその問題点についてグラフや資料から分析し、まとめることができる。		⑤職業労働と家事労働の特徴について理解している。	ワークシート 定期考査
・ワーク・ライフ・バランス	○職業労働と家事労働について理解し、ワーク・ライフ・バランスについて考えさせる。	・様々な立場からワーク・ライフ・バランスの実現のための方策を考える。	1	③自分の将来のこととして捉え、講師の話をしっかり聞いている。	⑥ワーク・ライフ・バランスを実現させるための方法について考えている。			ワークシート 行動観察
・家族・家庭の問題	○他者と協力しながら、家族間の課題解決方法を考えさせる。	・家族・家庭の課題について解決策を考える。	1		⑦家族間における課題解決の方策を考えている。			ワークシート (フォーマット課題) 行動観察
・多様なライフスタイル	○家族・家庭の問題には、社会全体で解決をめざさなければならない問題があることを理解させる。	・多様な生き方、多様な価値観で社会が成り立っていることを理解する。	1				⑥ダイバーシティの社会について理解している。	ワークシート 定期考査 行動観察
総時間数			10					

5 学習指導案

科目名	家庭基礎	指導クラス	1年	使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)
単元名	第1章 自分らしい人生をつくる(10時間)				
本時の主題	6 これからの家庭生活と社会(9時間目/10時間)				
指導観	生徒たちは現在の家族・家庭の状況を把握し、自分の生活課題については見つけ直すことができるようになってきたと感じる。しかし、10～15年後の自分については、まだまだイメージがしにくいようである。本時は、生徒が自分事として捉えやすいように、親しみやすいロールモデルを設定し、自分がその立場になったらどうするかを考えさせ、学んだ知識や経験者の事例を基に課題を解決していこうとする力を養いたい。また、家族の課題は社会の課題であることも気づかせ、視野を広げるきっかけとしたい。				
本時の目標	子育て・共働き夫婦の課題解決の方策について考える。				
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導	
導入 5分	本時の目標確認	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">1 M字型曲線について確認する。</div>		<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を振り返るとともに本時の目標を確認させる。 	
展開 40分	キーワードの確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">2 「逃げるは恥だが役に立つ」をロールモデルとして、キーワードを振り返る。</div>	<p>評価規準 【思考・判断・表現⑦】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族間における課題解決の方策を考えている。 <p><評価方法> ワークシート・行動観察</p> <p><Aの例></p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだ知識を生かし、自分の事として捉えて、具体的に考えている。 他者の意見も参考にしながら、課題解決の規準を踏まえたうえで、方策を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ロールモデルについて確認する。 育児休業制度について確認する。 事例について、自分はどうのようにするかを考えさせる。 	
	男性育休について考える	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">3 男性の育休取得について考える。</div> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までの学習を基に課題に取り組んでいる。 学習内容をつなげて考えられない。 		<p><Bを実現するための指導></p> <ul style="list-style-type: none"> 用語と条件の確認をする。 他者の意見をもとに自分の考えを見直し、深める。 	
	経験者から学ぶ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">4 経験者の意見を参考に、疑問や不安を解決する。 (Windows Media Player 動画視聴)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">5 育休取得をどうするか、最終ジャッジをする。</div> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> 育休を取らない場合についても考えている。 第三者の視点から育休について考えている。 客観的に考えることができない。 	<p><Cへの手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> 経験者の事例を見ながらまとめるように指導する。 机間指導をし、助言する。 		
まとめ 5分	本時のまとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">6 家族の問題は社会の問題でもあることを確認する。</div>		次時の予告をする。	

□工夫している点

- 生徒が興味関心を持ちやすい身近な大人やモデルとなる人、ニュースなどをあげることでイメージがわかりやすくなるように工夫した。
- 経験者や先輩の意見など様々な考え方があることを提示し、自分たちの考えが深められるようにした。

□実践後の評価結果

	学習活動における 具体的評価規準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	<ul style="list-style-type: none"> • 家族間の課題解決のための方策を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学んだ知識を総合的に用い、家族間の課題解決のための方策を考え、具体的に表現することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の課題として捉えられておらず、課題解決の方策が考えられていない。
生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 事例の問題点について記述されている。(16/34人) • 経験者の事例を参考に自分の意見をまとめている。(29/34人) • 課題解決のために自分がどうするかを考えている。(21/34人) 	<ul style="list-style-type: none"> • 事例の問題点について、キーワードを用いながら、具体的に記述されている。(18/34人) • 経験者の事例を参考にしながら、自分の考えを具体的に表現できている。(5/34人) • 課題解決のための具体的な方策が記述されている。(11/34人) 	<ul style="list-style-type: none"> • 事例の問題点に気付けない。(0/34人) • 経験者の意見のみで、自分の考えが記述されていない。(0/34人) • 自分の課題として捉えられておらず、解決策の記述がない。(2/34人)
記述例	<ul style="list-style-type: none"> • 男性が育休を取得することがまだ世の中の普通ではない。しかし、育休は男女ともに取得した方が良いと思う。育休を取得したいということを会社でも伝えて、取得することを理解してもらいたい。仕事をしたい女性が早く職場に復帰するためにも男女で協力して、交代制で取得していきたい。 • 周囲からの偏見もあり、男性が育休を取るのが難しい。育休を取得すると収入面で困ることはあるので、人生設計をたてるべきだと思った。育児は一人ですべてをすることは難しいので協力していく必要もあるし、周囲の理解や偏見がなくなることが大切だと思う。 • 周囲が育休を取りづらくしている。自分の企業や住んでいる地域がどんな活動をしているのか、よく調べることも大切だと思った。また、子どもをつくる前に夫婦で育休を取得するのか、貯金をどうするのかなど話し合っておく必要があると思った。一人で子育てをするのは大変なのでパートナーには短い期間でも育休を取得してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 育休は男性が取るものじゃないという、性別役割分業意識や、アンコンシャスバイアスがまだまだ根付いている。男性が育休を取ることで、子どもとの生活で何をしないといけないのか考えて過ごしている様子を感じた。育児は、男性でもできることをして、産後の女性の体を労わることもつながるのではないかと考えた。女性しかできないことばかりではないと感じるので、協力しながら、また周りの人の力も借りながら(共助)2人で子どもを育てていきたい。 • 僕は育休を取得したいと思います。みんなが育休を取得していけば、社会の概念が変わっていき、男性の育休取得率も増加していくと思います。そうすることでアンコンシャスバイアスも変わっていくのではないかなと思う。男性が取得しやすくなる環境づくりをしていきたい。将来のために人生設計をしていき、預金やワーク・ライフ・バランスについても考えておきたいし、母親だけで育てるのは身体的にも精神的にも厳しいと思うので、家事は進んでいきたいし、女性が仕事を続ける場合、早く社会復帰した方が収入の増加にもつながるので、そういう意味でも家事をし、協働していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 僕は育休をとりたいと思った。女性だけに育児をさせるのは、あまりよくないと思うから。 • 今はまだ、想像がつかないので、その時の状況によって判断したいと思う。話を聞いているとものすごく大変そうだから取る選択を考えたいと思う。

□授業後の課題と改善

<ul style="list-style-type: none"> • 単元のまとめのパフォーマンス課題として実施する予定であったが、休校により予定していた講座が延期になり、受講前の実施となったのが残念であった。しかし、オンライン学習支援授業による時間の有効活用により、ロールモデルの設定確認ができたのは良かった。 • Microsoft Forms を活用することで、生徒たちの「今、感じていること」の情報を取り入れるとともに、実状に合わせて授業の形態を変更した。(協働で課題解決→各自でパフォーマンス課題に取組む。解決する課題の内容についても変更。)また、その意見を基に、課題解決の参考となる動画を制作した。動画視聴に関しては、動作状況も踏まえてどのように実施するか検討していくことが重要であるし、それに対応できるICT活用を更に向上させていく必要性を感じた。 • 本授業時の動画視聴は、各自が選択した動画を、自分のタブレットで視聴するという形式で行った。本授業以外でもこの形式で動画視聴を行ったが、大画面で、同じ動画を視聴するよりも集中して視聴し、自分の考えに反映させることができているように感じたため、動画視聴の方法も検討していくと良い。

第1章 自分らしい人生をつくる

年 組 番

⑥ これからの家庭生活と社会

名前

目標 子育て共働き夫婦の課題解決の方法について考える。

SDGs

3・5

振り返り

P29 日本では、女性の労働力率が「M字型曲線」になるのはなぜか。どうすればよいだろう。

なぜ	どうすればよい？

▼キーワードの整理をしよう

- ・「 」多様性
- ・「 」男は仕事、女は家事・育児という、役割と性別を結び付けて考える意識
- ・「 」生物学的な性別に対して、社会的・文化的に形成される性別
- ・「 」仕事と生活の調和
- ・「 」個人や家族などが、自らの責任と努力でリスクや問題に対応すること
- ・「 」地域、友人、ボランティアなど周囲の人々と助け合うこと
- ・「 」国や地方公共団体などによる生活保障のこと
- ・「 」共に社会で生きる仲間として、助け、支えあいながら、誰もがよりよい人生を創造できる社会にしていこう
- ・「 」同じ目的のために、力をあわせて働くこと
- ・「 」自分が気付かずに無意識にもっている偏った見方・考え方(偏見)のこと

▼MEMO・下書き

・経験者の事例

課題

④ ③について上司にどのように伝えるか

▼次の事例について、自分の考えをまとめてみよう。

夫婦で男性の育休を取得したいと考えていたため、夫が自分の上司にその旨を伝えたら、上司から以下のように言われた。

「男が育休とったって、やることなんか、ないよ」

「男の場合、1週間が妥当なライン。だって1か月もとって、それが前例になって、みんながそんなに休むようになったら、仕事になんないよ」

いったん家に持ち帰り検討してから、再度申請することにした。

妻の会社では、パートナーの1か月の育休取得を口にすると、同僚の男性が

「えっ？ 1か月もとらしてくれんの！？ いい会社だね。もし、うちの会社で男が育休とるなんて言ったら、『仕事なめてる』って言われちゃうよ」

しかし、そんな風に言われてみると、本当に育休取得をしても良いのか少し悩み始めた。

①この事例の問題点

②育休を取得するにあたって、あなたが疑問や不安に思うことを以下から選び(○をつける)、自分としての解決案(動画を視聴し、経験者の意見も参考に記述すること)

A 周囲の反応 ・ B 収入について ・ C 育休の過ごし方 ・ D 育児の大変さ(育児と仕事との違いやギャップ)

③これらを踏まえて、育休の取得をどうするか(理由も含めて)

【自己評価】

・子育て共働き夫婦の課題解決について具体的に考えることができた

A ・ B ・ C ・ D

・今までに学んだ知識をいかすことができた

A ・ B ・ C ・ D

・客観的な立場から捉えたとき、男性の育休についてどう考えるか。